



西条市立西条図書館ヤングアダルトコーナーフェア案内

YAおすすめ本 2020年11月 フェアテーマ 『多文化』



2020年の年明けから、新型コロナウイルスのおかげで世界中の感染状況が常に話題となりました。その為に、普段は遠く感じる世界が近く感じられたことも確かです。この機会に今まで知らないでいた世界を、まず学んで多文化を知り、共生していく、または理解を深めるきっかけにしてはどうでしょうか？世界の人から見た日本はどんなところでしょうか？私達からみた世界はどんな世界でしょうか？視野を広げてみるチャンスです。



西条市立西条図書館

住所：西条市大町1590

TEL0897-56-2668

開館時間9：30a.m.～20：30p.m.

ヤングアダルトコーナー海外文学おススメ本をご紹介

『本当の人生』 アドリーヌ・デュドネ 藤田 真利子 訳

東京創元社 953. 7/テ

狩猟が趣味の暴力的な父親と、その顔色をうかがうだけの母親。10歳の少女は無邪気な弟と楽しい日々を過ごすが、事故を目撃したときから弟から笑顔が消え、虫や動物をいじめるように。現実をリセットしたい少女の試みは？

『みずうみ』 テオドール・シュトルム 酒寄 進一 訳理論社 943/シ

市井の人々の深い人間関係を色濃く描いた、ドイツの市民的リアリズムの作家シュトルムの短編集。表題作ほか「リンゴが熟したとき」「人形使いのポーレ」など全4編を収録する。

『あの頃、君を追いかけた』 九把刀 阿井 幸作・泉 京鹿 訳

923. 7/シ

優等生で可愛くて、だけどクールな君。いつの間にか俺の毎日は、その笑顔でいっぱいになっていて…。青春ラブストーリー。2018年公開映画の原作を翻訳。巻頭に映画スチールのスペシャルフォトあり。

『ぼくたちに翼があったころ』 タミ・シエム＝トヴ 樋口 範子 訳

福音館書店 929/シ

大人たちに支えられ、自立していく孤児たち。厳しさとやさしさに満ちたいとなみは、いつまでも続くはずだった…。1934～39年のポーランドを舞台に、教育に一生をささげたコルチャック先生と子どもたちの姿を描く。



11月フェア『多文化』おススメ本をご紹介

『世界の国境を歩いてみたら…』『世界の国境を歩いてみたら…』番組取材班

河出書房新社 290.9/セ

日本にはないもの、それは地続きの国境線! アルゼンチン×ボリビア、アメリカ×カナダ…。国境周辺を歩いてわかった文化の違いと国際情勢、悲喜こもごもの人間ドラマを、写真を交えて紹介する。BS11の人気番組を書籍化。

『世界を変えるオシゴト』マリー・ソー キャロル・チャウ 共著

林 路美代 林 民子 共訳 講談社 335.8/ソ

チベット族が飼っている「ヤク」の毛を使った高品質のニットの製造販売ビジネス。それは貧困の村人たちに、安定した雇用と継続的な現金収入をもたらした。『世界を変える100人の社会起業家』に選ばれた女性2人の物語。

『JAPAN 外国人が感動した!すごいニッポン』

Amazing Japan Researchers 宝島社 291/シ

未体験のハーモニー「いちご大福」、圧巻の一言「姫路城」、天才的ラッピング「風呂敷」、驚異の荷物紛失ゼロ「関西国際空港」…。ニッポンを訪れた外国人観光客が感動した、ニッポンの魅力を紹介する。

『JAPAN 外国人が感嘆した!世界が憧れるニッポン』

Amazing Japan Researchers 宝島社 291/シ

外国人急増中「四国八十八ヶ所巡り」、ジョブズも影響を受けた「禅」、驚異の品揃え「ダイソー」、わっぱや陶器など容器も人気「駅弁」…。外国人が感嘆した、ニッポンの魅力を紹介する。



11月フェア『多文化』おススメ本をご紹介

『はじめての留学』 堤 未果 PHP研究所 916/ツ

奇妙なホストファミリー、愉快的ハウスメイトたち…。高校卒業と同時にアメリカに留学し、いまジャーナリストとして活躍する著者が綴った、元気いっぱいのカリフォルニア留学体験記。

『ひとりではじめたアフリカボランティア』 栗山 さやか 金の星社 916/ク

渋谷109の元ギャル店員が世界を旅し、アフリカでNPOを立ち上げた! アフリカで目をそむけたくなるような現実に直面し、女性や子どもを支援する協会「アシャンテママ」をたったひとりで設立した著者の奮闘記。

『ワールド・ウォッチ 地図と統計で見る世界』 こどもくらぶ 丸善出版
350/ワ

世界の今とその動きがひと目でわかる、ビジュアルな世界地図。世界の人口動向、教育・健康や経済状況、環境問題の統計データを地図上に示し、カラフルなイラストやグラフを添えて、各国の違い、そしてつながりを紹介する。

